

製品名: CEP170 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08661**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	160kDa

抗原情報

遺伝子名	CEP170
別名	CEP170; FAM68A; KAB; KIAA0470; Centrosomal protein of 170 kDa; Cep170; KARP-1-binding protein; KARP1-binding protein
遺伝子 ID	9859.0
SwissProt ID	Q5SW79
免疫原	抗血清はヒト CEP170 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 701-750

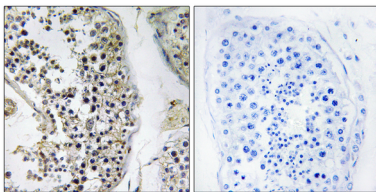
背景

中心体タンパク質 170 (CEP170) ホモサピエンス この遺伝子産物は、動物細胞において主要な微小管形成中心として機能する非膜細

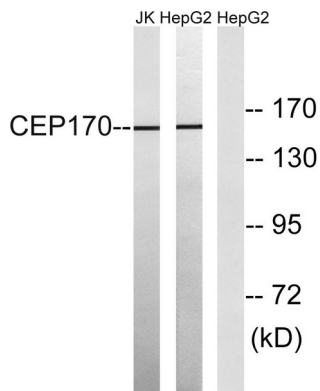
胞小器官である中心体の構成要素である。間期には、コードされているタンパク質は成熟した中心小体の垂遠位付属器に局在する。中心小体は微小管を基盤とした構造で、中心体の形成を助けると考えられている。有糸分裂期には、このタンパク質は中心体付近の紡錘体微小管と結合する。このタンパク質はポロ様キナーゼ 1 と相互作用し、リン酸化され、微小管の組織化と細胞形態の維持に機能する。ヒトゲノムには、転写された偽遺伝子と考えられる遺伝子が含まれている。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエントが複数見つかっているが、これらのバリエントの一部は全長が未解明である。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]機能: 微小管の組織化に関与する。、PTM: リン酸化される。おそらく PLK1 による。DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。、類似性: CEP170 ファミリーに属する。、類似性: 1 つの FHA ドメインを含む。、細胞内局在: 成熟した母細胞の中心小体と関連する。有糸分裂中の紡錘体微小管と関連する。、サブユニット: PLK1 と相互作用する。、

研究分野

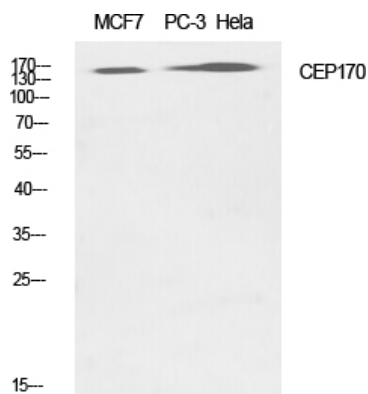
画像データ



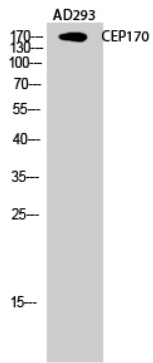
CEP170 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト精巣組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CEP170 抗体を用いた HepG2 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CEP170 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



CEP170 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた AD293 細胞のウェスタンブロット解析